

南ア月報
(2015年11月)

在南アフリカ日本国大使館

主な出来事及び項目

【内政】

- モトランテ前大統領による三者同盟批判
- ANCクワズールー・ナタール州大会の開催
- 第12回 COSATU 全国大会の開催

【外交】

- マシャバネ外相による第2回FOCACサミット記者会見
- ズマ大統領のG20参加
- バシール大統領のFOCAC欠席

【経済】

- 成長率
- ランド安
- レボレート
- 干ばつ
- 雇用

1 内政

●モトランテ前大統領による三者同盟批判

2日付当地ビジネス・デイ紙インタビューにおいてモトランテ前大統領は、ANC、南ア共産党及びCOSATUからなる三者同盟はいまや機能していないとして、バビCOSATU前事務局長及びNUMSAを除名したCOSATUの決定を批判するとともに、ANC内部で民主主義の精神が損なわれており、いかに理想的な政策や憲法を掲げても実施で間違えば状況を困難にする、来年の統一地方選挙ではANCは支持を落とすと警告した。ANCやCOSATUからは「モトランテ氏は今日の情勢をもはや把握していない」と反発の声があがったが、3日付ビジネス・デイ紙社説は「ANCはモトランテの声を聞くべき」として警鐘を鳴らしている。

●ANCクワズールー・ナタール州大会の開催

6日より8日にかけて、ANCクワズールー・ナタール(KZN)州大会が開催された。同大会では州幹部の改選が行われ、シシュレ・ジカララ(Mr. Sihle Zikalala)党州事務局長が党州委員長だったセンゾ・ムチュヌKZN州首相を破り、新・党州委員長に就任した。投票結果は、ジカララ氏が780票、ムチュヌ氏が675票と僅差となった。ジカララ氏は2017年に予定されるANC党総裁選に向けてドラミニ＝ズマ現AUC委員長を支持していると言われ、同氏がANC州支部の中でも最大数の党員を擁するKZN州を率いることとなったことから、今回の選挙結果はドラミニ＝ズマ派にとって大きな後押しとなったと見られている。

●第12回COSATU全国大会の開催

23日より26日にかけて、第12回COSATU全国大会が開催された。3月末にバビ前事務局長が更迭されて以来空席となっていた事務局長に、ンツァリンツァリ(Mr Bheki Ntshalintshali)前副事務局長が就任した。幹部人事は副事務局長ポストだけが選挙となり、フェトエ(Mr Solly Phetoe)COSATU前北西州事務局長が圧倒的多数で選出された他、来年の統一地方選挙ではANCを支持するとの決定がなされた。また、昨年COSATUから除名したNUMSAと今年更迭したバビ前事務局長についての決定を再確認した。南ア民主教職員組合(Sadtu)はラマポーザ副大統領がANC総裁としてズマ大統領の後を引き継ぐとの暗黙の支持を求め、ANC副総裁が党総裁及び大統領職を引き継ぐとの原則の再確認を求める提案を行った。Sadtuの提案は、全国教育保健同盟労働者組合(NEHAU)、南ア衣料・繊維労働者組合(Sactwu)、南ア民主看護団体(Denosa)よりも支持された一方、ヌジマンデ南ア共産党(SACP)事務局長は、「早期の後継者論争は三者同盟を不安定化させる」とした。

2 外交

●マシャバネ外相による第2回FOCACサミット記者会見

6日、プレトリアに於いて、マシャバネ国際関係・協力大臣は、第2回FOCACサミット開催を前に記者会見を行った。その中で同大臣は、1 今次サミットは、アフリカで最初に開催されるFOCACサミットであること、2 具体的な方法を形作るヨハネスブルク宣言及び行動計画を採択する予定であること、3 南アフリカは共同議長として、アジェンダ2063の最初の10ヶ年実施計画をFOCACの目的と同化することを目指すとした。

●ズマ大統領のG20参加

15日～16日、トルコ・アンタルヤで開催されたG20サミットに参加したズマ大統領は各種会合に於いて演説等を行ったところ、概要以下の通り。なお、ズマ大統領は、殆どの演説の冒頭で、14日発生したパリ連続テロ事件、アンカラで発生した爆破事件及びシナイ半島に於けるロシア機墜落に言及し、哀悼の意を表した。

BRICS首脳との非公式会合に関する報道機関向け要旨では、BRICS新開発銀行(NDB)は、IMF改革に関する合意実施の遅れに深い懸念を表明し、米国ができるだけ早急に同改革を批准するように求めた。

●バシール大統領のFOCAC欠席

27日付プレトリア・ニュース5面で、スークラル国際関係・協力省アジア中東担当副次官は、「在プレトリア・スーダン大使館は公式に、スーダンの代表団長は、サレ(Bakri Hasan Saleh)第1副大統領が務めると発表した。」と述べており、複数の政府筋によると、南アと中国ともに、6月のバシール大統領のAU総会出席で受けた非難を避けるために、同大統領に今次FOCACに出席しないように要請していた。

3 経済

<経済指標>

●成長率

南ア統計局によると第3四半期の国内総生産(GDP)は前期比年率0.7%増のプラス成長となり、過去6年間で2回目の景気後退(リセッション)入りを免れた。成長率の低さは、恒常的な電力不足、商品値下がり、低需要、干ばつ、中国経済の失速が要因として上げられる。南ア準備銀行の見通しによれば、今年の成長率は1.4%、南ア財務省の見通しによれば、1.5%と見込んで

いる。

●ランド安

ネネ財務大臣は、米国の利上げがさらなるランド安をもたらす可能性は低いと述べた。ランドは対ドルで今年に入って19%下げ、過去最安値を更新した。

●レポレート

南ア中銀は、政策金利であるレポレートを6.00%から6.25%に引き上げた。

<出来事>

●干ばつ

南アのエコノミストによると、干ばつにより、農業生産の減少及び少なくとも1%の平均経済成長率を押し下げていると述べた。全国的な干ばつと長引くランド安のため、食料品価格は上昇している。

●雇用

南ア製造業部門の中・大企業の役員で構成される Manufacturing Circle の第3四半期の結果によると、現状の不安定なビジネス環境により、来年は約半数の企業が雇用の半分以上を削減すると予測している。28%の企業が雇用増加を来年予定している一方で、45%の企業が雇用削減を予定している。

4 広報・文化

●桂サンシャイン氏による落語公演・レクチャー

カナダ人落語家・桂サンシャイン（三輝）氏が、アフリカ落語ツアーの一環として南アを訪れ、プレトリア大学において落語公演（16日）及びレクチャー（17日）を行った。また18日には、ヨハネスブルグ日本人学校において落語公演を行った。

当地の方々にとって、落語を鑑賞する初めての機会であったが、公演会場は常に笑いに包まれるなど、参加者には非常に好評であり、日本文化の新たな側面を紹介する良い機会となった。

5 警備

●在留邦人の被害発生状況について

11月末日現在、大使館へ報告された在留邦人に係る犯罪被害の発生状況については、以下のとおりである。例年、年末にかけて犯罪発生率が増加する傾向にあり、特に、置き引きや車上ねらい等の窃盗犯罪に対する防犯対策を徹底する必要がある。また、特に混雑が予想されるようなパブリックスペース（各種イベント・マーケット会場、競技場、ショッピングモール等）においては、スリ被害が多発する傾向があるため注意が必要である。

【罪種（手口）】

- 窃盗（侵入盗）4件、（車上ねらい）9件、（スリ）3件、（スキミング）2件、（置き引き）1件、（その他）1件
- 強盗（路上強盗）11件
- その他1件
- 計32件

注）上記は、未遂被害を含む件数であり、大使館へ報告された被害例のみ計上したもの。

（了）